



地域国際化協会連絡協議会の活動

全国五九の都道府県・政令指定都市に設置されている地域国際化協会は、相互連携と情報交換を通して地域レベルの国際化に寄与するため、地域国際化協会連絡協議会(以下、協議会)を設置しています(平成二年七月発足、事務局は当協会)。ここでは、協議会の活動を平成一六年度の事業内容を中心に紹介します。

(財)自治体国際化協会支援協力部地域支援課

1 地域国際化協会職員研修の実施

地域国際化協会の職員を対象に、事業実施のノウハウ習得や直面する課題の検討、情報交換を行うとともに、職員間のネットワークの形成を図ることを目的として実施しています。

○国内研修

明治大学・山脇教授を迎え、「多文化共生



↑地域国際化協会職員国内研修「講演会」の様子

社会の形成と地域国際化協会」をテーマに基調講演を行うとともに、「専門化する相談内容への対応」、「連携・協働・ネットワーク」、「指定管理

者制度」の三つの課題別分科会を実施しました。

○海外研修

タイ及びカンボジアを訪問し、国際協力機構(JICA)のODA活動や、現地に拠点を置くNGO及び現地の団体をカウンターパートとして活動するNGOを視察し、関係者との意見交換を行いました。

2 情報共有化の推進

○多言語生活情報の更新リンク集

平成一四年度に九言語に翻訳した在住外国人のための生活情報(一般編、住宅編、医療編、多言語相談窓口編)を作成し、ホームページに掲載しました。平成一五年度以降も、言語数の拡充、情報の時点修正など、順次、更新を行っています。(URL: <http://www.clair.or.jp/tagengo/>)

また、多言語生活情報のリンク集を設置し、同ホームページから各自自治体の生活情報ホームページを見ることができるようになりました。

○医療通訳ボランティア研修プログラムの普及

平成一六年度は、医療通訳ボランティアの養成を目的として開発された医療通訳ボランティア研修プログラムの普及のために、全国一協議会の方々に説明会を開催し、活用していただきました。(URL: http://www.web-contents.com/clair_new/j/culture/)

○地域国際化協会ダイレクトリーの作成

各地域国際化協会の組織、主な事業活動等を網羅したダイレクトリーを作成し、都道府県・政令指定都市と各地域国際化協会等へ配布するとともに、ホームページに掲載しています。(URL: <http://www.clair.or.jp/j/clairinfo/kyokai/index.html>)

3 地域ブロックへの支援

地域国際化協会は、全国六つのブロックで地区連絡協議会を設置しています。協議会は、地域ブロックの活動を支援するため、地区連絡協議会を対象に交付金の交付や有益な全国情報の提供などを行っています。

第3回 国際交流協力実践者全国会議2005

協働が生みだすダイナミズム — 新たな地域づくりと私たちの役割 —

開催日 / 2005年8月27日(土)～28日(日)

会場 / 国際協力機構(JICA) 国際協力総合研修所(東京都新宿区市谷本村町10-5)

3年間にわたる全国会議の集大成となる第3回国際交流協力実践者全国会議は「協働が生みだすダイナミズム～新たな地域づくりと私たちの役割」をテーマとして実施します。国際交流・協力活動の担い手が全国各地から集い、地域社会で実践されている国際交流・協力活動の協働事業の事例の分析、検証を行い、実践に結びつく参加型の議論を行います。また最終回となる今回の会議では、草の根レベルの国際交流・協力活動の意義と実践者の役割の重要性を広く社会にアピールすることをめざして、宣言文の作成・発表を行い、さらに実践者以外のメディア・政府関係者らの参加を得て、草の根の活動をいかに発展させるかについて考えます。

対象: 国際交流協力の実践歴が3年以上の国際交流協会、自治体、協力4団体の職員および今回のテーマに関心のあるNGO・NPOの職員で両日とも参加できる方。ただし、〔特別企画〕公開セミナー(8月28日(日) 13:30～16:00)は一般の方の参加も可。

定員: 200名 / 公開セミナーは300名

参加費: 10,000円(2日分の昼食代、交流会飲食代含む) / 公開セミナーは無料

*会場の都合で宿泊は参加者各自でご手配ください。⇒近隣ホテル情報はホームページ上で紹介予定

応募方法: ホームページ上の申込フォームで、氏名(ふりがな)、性別、連絡先(住所、メールアドレス、TEL)、所属団体名(部署)、仕事の内容、勤務年数、国際交流協力活動歴、本会議に期待すること(100字以内)、希望する分科会(第2希望まで)を記載の上、申込。⇒<http://www.mia.gr.jp/zenkoku/>

締め切り: 7月31日(参加の決定等に関する通知は原則メールで行います)

問合せ: 第3回国際交流協力実践者全国会議事務局(武蔵野市国際交流協会) TEL:0422-36-4533

全国会議日程 (以下、敬称略。また、講師等若干の変更の可能性があります)

8月27日(土) / 9:30～21:00

午前 全体会～パネルディスカッション「協働・ダイナミズム・多様性～国際交流・協力を越えて!」

内外の状況がダイナミックに変化する中、国際交流・協力活動も大きく変化しつつあります。第3回会議のオープニングにあたって、協働・ダイナミズム・多様性の3つのキーワードをもとに、これからの活動の方向性や実践者のあり方について論点を整理します。

コーディネーター: 田村太郎(IIHOE)
リソースパーソン: 阿部一郎(多文化共生センター)
川北秀人(JEN)他
宣言文説明: 小川忠(国際交流基金)

午後 分科会 (第2希望まで選択してください)

国際交流協会の方向性として、さまざまな団体や機関との連携が模索されています。これまでの事業や調査活動で見えてきた課題を検証し、具体的な連携の相手として「学校」

「NGOや政府機関」「行政」「一般市民」、また「協会自身」を切り口に、国際交流協会の役割や今後の事業のあり方を考えます。

1 外国人支援～日常活動から、災害時に機能する仕組みづくりまで

内容:全国的に外国人の定住化が進み、こうした急速なグローバル化にともなって各地域では自治体における外国人施策のあり方が問われ始めています。この分科会では、新潟中越地震の時の取組みを通して災害時における外国人住民への支援のあり方を検証し、さらに多文化共生の視点から、今後外国人支援事業を市民主体の日常活動としてどのように構想していったらいいのかを、中越で中心的役割を果たした国

際交流協会職員や日ごろ外国人問題に取り組んでいる専門家を交えて考えます。

コーディネーター: 杉澤経子(武蔵野市国際交流協会)
リソースパーソン: 羽賀友信(長岡国際交流センター)
田村太郎(IIHOE)
大木和弘(弁護士)
渡戸一郎(明星大学)

2 国際理解教育と地域ネットワーク～協働から生まれたネットワーク

内容:国際理解教育における各地域の取組みについて学びます。特に名古屋地域で国際交流協会(県・市)・JICA・NGOネットワーク団体の協働で開催されている「国際理解教育セミナー」が、単なる事業開催を超えて、地域の国際理解教育リソースの包括的な事業展開に発展した事例をもとに、実践者会議にかかわる各団体の協働が生み出すダイナミズムについて考察します。

コーディネーター:丹下厚史(名古屋国際センター)
リソースパーソン:磯貝白日(国際協力機構(JICA))
名古屋NGOセンター関係者(予定)
秋田昌英(前・愛知県国際交流協会)
小林正人(都立鷺宮高等学校)

3 文化力こそ地域力～外へ向かう勇気、外からの発想

内容:あなたの地域を元気にするための手段として国際交流を考え直してみませんか。その第一歩として、地域の伝統や文化を再発見することから始めましょう。

日本各地には多種多様な文化が継承されてきていますが、これを地域の財産として再発見し、さまざまなセクター間における協働作業を通じて、地域文化と国際交流が地域に新たなダイナミクスを生み出す力となりうるのではないのでしょうか。

この分科会では、地域の文化に根ざした国際交流が持つさまざまな可能性について理論から実践にいたるまでの過程を考えてみたいと思います。

コーディネーター:伊藤実佐子(国際交流基金)
リソースパーソン:馬場伸一(福岡市役所)
前田芳男(有限会社トトハウス)
山口考子(庄内国際交流協会)

4 地域づくりと国際協力

内容:この分科会では、これからの地域づくりに関連した国際協力活動の意義やそのあり様を、「神奈川県にみる民際協力基金事業」「滝川市にみる地域の特色を生かした農業協力」「武蔵野市にみる教員による教育協力」などいくつかの地域事例をもとに考えることを目的とします。協議のキーワードとして「地域課題」「協力と支援」「当事者間の学び」「協働」などが想定されますが、過去2年間の実践者会議での協議を踏ま

えつつ、地域の特色・地域課題を軸にしたこれからの国際協力のあり様を浮かびあがらせたいと思います。

コーディネーター:山西優二(開発教育協会・早稲田大学)
リソースパーソン:木下理仁(神奈川県国際交流協会)
山内康裕(滝川国際交流協会)
横田宗(ACTION)

5 創造都市と多文化共生～多様性を認め合う地域社会をめざして

内容:地域における外国籍住民の増加や定住化の強まりは、時には国籍や文化背景の異なる住民の間で摩擦や対立を生んでいます。しかし一方で、これからの地域でのまちづくりには、大量消費に代表される物質的な豊かさではなく、人とのつながりの中で生み出される豊かさ、つまり文化がもたらす豊かさが求められています。地域のさまざまな文化資源を活用しながらまちづくりを進める「創造都市」の考え方に学びつつ、日本の創造都市と呼ばれる金沢と京都の事例を通して、「多

文化共生」と地域の「文化力」との関係や多文化共生の「あした」を探ります。

コーディネーター:阿部一郎(多文化共生センター)
リソースパーソン:佐々木雅幸(大阪市立大学)
高橋良香(金沢国際交流財団)
広瀬奈々(//)
重野垂久里(多文化共生センターきょうと)

夕方 交流会

8月28日(日)

午前 全体会～クロージングフォーラム「これからの国際交流・協力活動と私たちの実践」

分科会の報告を受けて、実行委員、協力4団体、参加者がそれぞれの想いを語り合いながら、今後の私たちの協働事業の可能性を考えます。

コーディネーター:山西優二(開発教育協会・早稲田大学)
杉澤経子(武蔵野市国際交流協会)

午後 【特別企画】公開セミナー「グローバル時代と草の根の国際交流・協力活動」

急速なグローバル化によって地域社会は大きな変革期を迎えるとともに、草の根レベルの国際交流・協力活動もその意義、役割が格段に増大しています。本セミナーでは、草の根レベルの国際交流・協力活動の活動の現状を報告するとともに、その社会的意義や将来に向けての国際交流・協力活動のあり方を議論します。また草の根レベルのそうした活動の担い手である実践者の役割の重要性を社会に向けてアピールする機会とします。

事例発表 :丹下厚史(名古屋国際センター)
実行委員報告 :毛受敏浩(国際交流センター)
熊岡路矢(日本国際ボランティアセンター)
コメンテーター:今井義典(NHK解説委員長)
松本克夫(日本経済新聞論説委員兼編集委員)
その他政府関係者等
司会 :有田典代(関西国際交流団体協議会)

主催 国際交流協力実践者全国会議・実行委員会
協力 国際協力機構、国際協力銀行、国際交流基金、自治体国際化協会